

## 循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
可茂地域	美濃加茂市 可児市 坂祝町 富加町 川辺町 七宗町 八百津町 白川町 東白川村 御嵩町	平成23年度～平成28年度	平成23年度～平成28年度

1 目標の達成状況  
(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成21年度)	目 標 (平成29年度) A	実 績 (平成29年度) B	実績B /目標A	
排出量	事業系 総排出量	15,624 t	15,228 t (-2.6%)	16,254 t (3.9%)	150.0%
	1事業所当たりの排出量	1.627t/事業所	1.584t/事業所 (-2.6%)	1.791t/事業所 (9.2%)	353.8%
	家庭系 総排出量	t	t (%)	t (%)	%
	1人当たりの排出量	166 kg/人	155 kg/人 (-6.6%)	160 kg/人 (-4.0%)	60.6%
合 計	事業系家庭系総排出量合計	56,873 t	53,219 t (-6.4%)	53,992 t (-5.3%)	82.8%
再生利用量	直接資源化量	1,252 t (2.2%)	1,367 t (2.6%)	503 t (0.9%)	-325.0%
	総資源化量	14,559 t (25.6%)	14,869 t (27.9%)	10,441 t (19.3%)	-273.9%
熱回収量	熱回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh	
減量化量	中間処理による減量化量	t (%)	t (%)	t (%)	%
最終処分量	埋立最終処分量	2,130 t (3.7%)	2,003 t (3.7%)	2,294 t (4.2%)	0.0%

※ 目標未達成の指標のみ記載  
(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成21年度)	目 標 (平成29年度) A	実 績 (平成29年度) B	実績B /目標A	
総人口	232,014 人	226,633 人	226,410 人	—	
公共下水道	污水衛生処理人口	137,190 人	人	人	%
	污水衛生処理率又は污水处理人口普及率	59.1 %	%	%	%
集落排水施設等	污水衛生処理人口	人	人	人	%
	污水衛生処理率又は污水处理人口普及率	%	%	%	%
合併処理浄化槽等	污水衛生処理人口	41,252 人	23,819 人	19,968 人	83.8%
	污水衛生処理率又は污水处理人口普及率	17.8 %	10.5 %	8.8 %	123.3%
未処理人口	污水衛生未処理人口	42,412 人	17,496 人	20,521 人	117.3%

## ※ 目標未達成の指標のみ記載

## 2 目標の達成できなかった要因

### 〈ごみ処理〉

#### ○排出量

家庭系1人当たりの排出量は、平成21年度の実績166kg/人と比べ、実績160kg/人となっており減少しているが、目標155kg/人は達成できていない。目標を達成できなかった要因として、生ごみのコンポスト化の推進が目標設定時の想定より進んでおらず、家庭系の可燃ごみの一人当たりの減少量が小さくなったものと考えられる。

事業系の総排出量は、目標15,228tに対し、実績16,254tであり、目標を達成できていない。目標を達成できなかった要因として、平成21年度と比べ、サービス業等の第三次産業の従事者が増加しており、可茂地域の産業が活発化しているため、オフィス等から出る紙ごみ等の排出が多くなり事業系の総排出量が増加してきたと考えられる。

#### ○再生利用量

再生利用量は、目標14,869t（再生利用率27.9%）に対し、実績10,441t（19.3%）であり、目標を達成できていない。目標を達成できなかった要因として、ごみ総排出量の減少に伴い、資源ごみ自体も減少していること。資源化ルートとして、民間資源回収などが増えてきており、市町村が量を把握できていないルートでの資源化が行われていること。スラグの資源化量が目標を設定した時より減少していることなどが考えられる。

#### ○最終処分量

最終処分量は、目標2,130tに対し、実績2,294tであり、目標を達成できていない。目標を達成できなかった要因として、スラグの資源化量が減少しており、資源化できなかったスラグを埋め立てているためであると考えられる。

### 〈生活排水処理〉

#### ○合併処理浄化槽

合併処理浄化槽処理人口は、目標23,819人（処理率10.5%）に対し、実績19,968人（処理率8.8%）であり、目標を達成できていない。目標を達成できなかった要因として、合併処理浄化槽の整備は行われているが、合併処理浄化槽から公共下水への整備が行われているためであると考えられる。

#### ○未処理人口

未処理人口は、目標17,496人（未処理率7.7%）に対し、実績20,521人（処理率9.1%）であり、目標を達成できていない。目標を達成できなかった要因として、未処理人口は着実に減少しているものの、非水洗化区域の下水整備が目標より進んでいないことや、汲み取りや単独処理浄化槽の合併処理浄化槽への転換が進んでいないことが考えられる。

### 3 目標達成に向けた方策

#### 〈ごみ処理〉

##### ・排出抑制・再生利用

家庭系ごみについては、広報紙、ホームページ、説明会等を通じた、ごみの減量化・資源化についての啓発活動の更なる充実を図り、資源回収率の向上に努める。

特に可燃物については、生ごみのコンポスト化等を推進し、可燃物の減量を推進する。また、民間ルートでの資源化量など、市町村で把握出来ていない資源化量の実態把握に努め、適正な資源化を推進する。

事業系ごみについては、事業者意識の啓発、資源回収業者の紹介・斡旋等を行うことにより事業系ごみの排出抑制・資源化を推進する。

スラッグの資源化については、組合及び構成市町村の公共事業での利用等のスラッグ有効利用の再検討を行い、資源化を推進する。

##### ・最終処分量

今後もスラッグの有効利用の推進につとめ、最終処分量の減量を推進する。

#### 〈生活排水処理〉

##### ・合併処理浄化槽・未処理人口

今後も非水洗化区域の下水道整備及び、汲み取りや単独処理浄化槽の合併処理浄化槽への転換を推進し、生活排水処理の向上を推進する。

#### (都道府県知事の所見)